

(2) 学校の取組

① 戦略的で柔軟な学校経営 ～校長のリーダーシップによる組織的な学力向上の取組～

【E 中学校の学校経営計画】

教職員が目標を共有し、組織的に学力向上に取り組むことができるよう、校長がリーダーシップを発揮し、戦略的で柔軟な学校経営を推進しています。

【経営の重点と数値目標を位置付けた学校経営計画】

- 学校経営方針
- 学校経営の重点

確かな学力をはぐくむ

- ①基礎・基本の確実な定着
- ②学習規律の確実な定着
- ③家庭学習の習慣化

● 重点指導内容

生徒の実態、学校評価等の結果を踏まえ、本年度の重点指導内容を以下のとおりとする。

家庭学習の習慣化

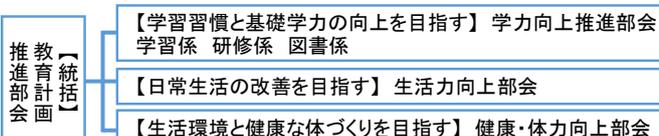
目標指標（生徒自己評価）
1時間以上 75%→100% 全くしない→0%

【目標の達成状況を定期的に把握する学校評価計画】

■評価内容、評価方法

名称、(評価者)	評価内容	時期	担当
家庭学習実態調査 (生徒)	家庭学習の時間や取組内容	4月 11月	学力向上推進

【目標の実現に向けた柔軟な組織体制】



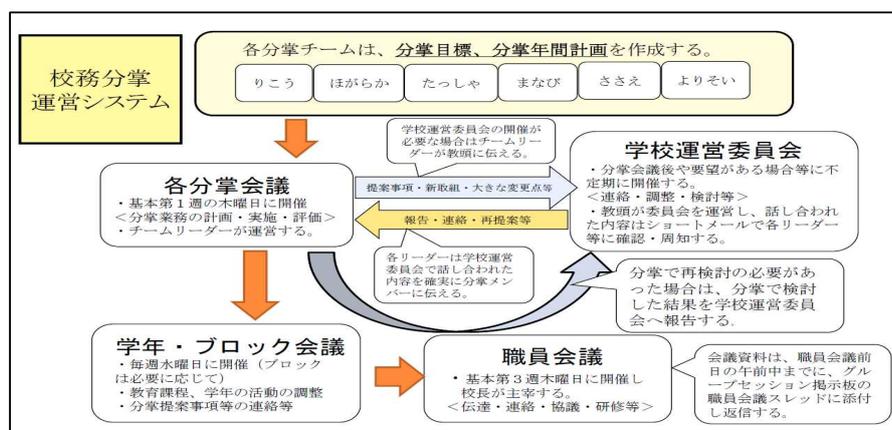
〈取組のポイント〉

教職員が目標を共有できるよう経営の重点からさらに優先順位を決めて取り組む内容を決め、具体的な数値目標を設定しています。また、学校評価に位置付け、年間複数回検証できるよう計画を立てています。さらに、重点項目の担当が明確になるよう分掌組織を柔軟に構成しています。

② 分掌の連携による課題解決 ～学校の教育目標の実現に向けた組織的な取組～

【F 小学校の校務分掌運営システム】

学校力向上を目指し、校長のリーダーシップの下、教職員の信頼の高まりと互いに教え合い、支えあう校務分掌運営システムを構築しています。



教育目標の実現に向け、各分掌が分掌目標、年間計画を作成し、検討が必要な際には、学校運営委員会が連絡、調整を図ることにより、全教職員の共通理解の下、組織的な運営を行っています。

〈取組のポイント〉

学校におけるすべての教育活動は、学校の教育目標の実現に向けられていること、学校の教育目標の実現には、全教職員による協働体制が必要であることを教職員が理解できるようにするとともに、校長のリーダーシップの下、すべての分掌が連携して、学校の課題解決を図る体制を構築しています。

③ 経験年数に応じた教員研修の充実 ～教員の資質能力の向上を図る計画的な教員研修の実施～

【G小学校の教員研修】

若手教員を対象とした基礎となる指導力等の向上を図る「メンター研修」、中堅教員を対象としたマネジメント能力の向上を図る「バックボーン研修」など、教員の経験年数等に応じた研修を実施しています。

【メンター研修の様子】



「メンター研修」では、中堅教員が講師となり、若手教員が抱える指導上の課題や悩みを共有し、解決を目指します。

【バックボーン研修の様子】



「バックボーン研修」では、中堅教員が互いに講師になり、学校運営や若手教員の育成をテーマに演習や協議を行うことにより、ミドルリーダーとしての資質能力を高めています。

〈取組のポイント〉

計画的な研修により、若手教員や中堅教員の個々の資質の向上が図られることは、学校力の向上にもつながっていきます。また、互いが研修講師を務め合い、悩みの解決等を図ることにより、校内の同僚性がはぐくまれています。

④ 「主体的・対話的で深い学び」を目指した組織的な研修 ～アクティブ・ラーニングの視点による授業改善の取組～

【H小学校の校内研修】

アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくりを研究の中心に据え、単元、一単位時間の授業改善に組織的に取り組んでいます。

【研究授業】



研究授業や研究協議を通して、「主体的に学びに向かう姿」「対話を生かして課題を追究する姿」「学びをまとめる、振り返る、生かす姿」が授業で現れていたか、教師の手だては適切だったかを検証しています。

【研究協議】



【研究記録】



研修の内容を「研究部便り」として発行し、記録化し、いつでも振り返ることができるようにしています。

〈取組のポイント〉

単元における学習過程の改善のポイントを示した「アクティブ化シートA」と一単位時間における学習過程の改善のポイントを示した「アクティブ化シートB」を作成し、全教職員の共通理解のもと、授業改善を進めています。校内研修では、KJ法を用いるなど、一人一人の教員が、主体的に協議に参加できるように工夫しています。

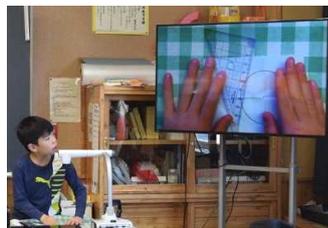
⑤ ICTの活用による授業改善 ～授業の効率化を図るICTの効果的な活用～

【I小学校におけるICTの活用】

全学級に、実物投影機・50インチのTV・パソコン・実物投影機・遮光カーテンなどを導入し、日常的なICTの活用による授業改善を推進しています。



機器の設置方法を全校で統一し、あらゆる機会に活用できるようにしています。



教科書や児童がまとめたノートを実物投影機で映し、瞬時に情報を共有し、授業の効率化を図っています。



授業の終末では、電子黒板を活用して、児童に学んだことを振り返らせるとともに、学習内容の定着状況を確認しています。

〈取組のポイント〉

ICTを活用した分かりやすい授業づくりを目指し、ICTの活用の仕方について交流したり、ICT担当者が中心となって研修を行ったりするなど、校内研修を工夫して、教員のICTの活用スキルの向上に努めています。

⑥ 家庭や地域と連携した学習サポート ～家庭や地域を巻き込んだ「チーム学校」としての取組～

【J小学校におけるチームとしての取組】

児童の基礎・基本の確実な定着のため、「学びを支える学習規律の徹底」「家庭や地域と連携した学習サポート」などを、マネジメントサイクルの中で確実に推進しています。

【学習規律の指導の継続・徹底】



校内で統一して取り組む事項等を「学びのポケット」にまとめ、常に教職員が確認できるようにしています。また、学期ごとに教員アンケートをとり、必要なページを追補するなど、常に改善を図っています。

【家庭や地域と連携した学習サポート】



毎日、学校のホームページを更新し、家庭や地域への積極的な情報発信に努めています。また、長期休業中に、保護者や地元の高校生が子どもたちの学習をサポートする機会を設定し、家庭や地域と連携した教育活動を推進しています。

〈取組のポイント〉

子どもたちの基礎・基本の定着に向け、学習規律についての指導事項や板書の仕方など、学校全体で共通して取り組むことを継続・徹底・深化させています。また、家庭や地域と連携した取組を推進するため、学校の教育活動の積極的な情報発信に努めています。